

遠賀川と人と

こんどう

近藤

おさむ

修

国土交通省 遠賀川河川事務所長



国土交通省 遠賀川河川事務所長
近藤 修

遠賀川流域だより

第011号
2009年10月

7月24日付けで事務所長を拝命いたしました近藤修です。津森前所長の後を引き継ぎ、歴史と文化、そして自然あふれる遠賀川を担当することができ、大変光栄に感じています。どうぞよろしく願います。

私は東京の23区を流れる神田川の近くで育ちました。フォークグループの「かぐや姫」の曲名としても有名な、あの川です。

写真でお分かりのようにコンクリート三面張りの「水路」のような川で、水に近づくことなど到底できない川でした。いや、できないというよりは「近づきたくない」というのが正直な所で、今はだいぶ改善されたと思いますが、子供の頃の思い出としては水量が少ない日には悪臭がする一方で、大雨が降れば一気に増水し、たやすくはん濫するやつかいな川という印象でした。



現在の神田川



直方リバーサイドパークから
遠賀川河川事務所を望む

く、流域の様々な方々のご努力の賜物であるということ、着任後間もなく知ることになりました。皆様には周知の事と思いますが、以前の遠賀川は、石炭の洗炭により「ぜんざい川」と呼ばれるほど黒く濁った川でした。今でこそそれなりに透明な水が流れていますが、依然として生活雑排水の影響等により水質は悪く、昨年の調査結果によれば九州地方の国が管理する26の河川の中で4番目に悪い（彦山川は3番目、犬鳴川は9番目に悪い）という状況です。

また、残念なことですが、心ない方々によるゴミの投棄が日常的に見られる川でもあります。

このように遠賀川の河川環境にはまだまだ課題もありますが、一方で昭和の時代から川に親しむ活動や清掃活動、環境学習等が行われ、平成に入って、それが活発に広がってきており、遠賀川を大切にしようという気持ち徐徐にですが着実に広がっております。こうした流域の方々の地道な取り組みにより、今の遠賀川があるのだということを忘れてはならないと思っています。

遠賀川は、この地域にとって他に誇れる貴重な財産です。この素晴らしい川を皆様と一緒に守っていきたいと思います。どうぞよろしく願います。



職員で参加した9月27日彦山川へ、ロシ大会の様子 先頭が近藤事務所長

洞山のゴミ緊急清掃ボランティア活動報告

主催：洞山保存会・芦屋町の自然を守る会・遠賀川流域デポジット法制化を求める事務局



洞山にたくさんの人々が集い清掃活動が行なわれました。

7月24日～26日の集中的な集中豪雨により遠賀川河口堰への河川水の流入量が増加したため、平成15年7月以来のゲート全開操作を実施し、ゴミは一挙に響灘に向けて流出してしまいました。

風光明媚な洞山周辺には、草木、ペットボトル、発砲スチロール、空き缶などが打ち上げられ洪水後は周辺を漂っていました。

7月24日～26日の集中豪雨で遠賀川から流れ出たごみの清掃活動を8月1日（日）芦屋町洞山で地元住民の呼びかけにより約300人のボランティアで実施されました。当日はゴミ袋約800袋分のゴミが回収されました。

主催者の声

このままでは、河口の自然環境、観光や漁業に甚大なる被害が出ることは必死の状態でした。

「自然遺産と魚つけ森の洞山をゴミから守ろう」をテーマに、他二団体（芦屋町の自然を守る会、遠賀川流域デポジット事務局）と共に、清掃活動を緊急に呼びかけました。

町内はもとより北九州市、遠賀川上流域、福岡市、また中国からの留学生も駆けつけてくれ、老若男女子供たち総勢300人余りの方々が参加し、夏の暑い中、汗を流して清掃活動を行いました。

洞山周辺は見違える程、綺麗になりました。今回ペットボトルは約1万個も回収しました。



葦の撤去と堆肥作りへ

主催：NPO法人遠賀川流域住民の会・嘉麻水辺の楽校周辺の環境を守る会



平成21年8月9日（日）、嘉麻市大隈町「嘉穂水辺の楽校」周辺の川岸や川面に生えている葦を刈り取る作業を「嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会」のメンバーと「NPO法人遠賀川流域住民の会」が行っています。

「NPO法人遠賀川流域住民の会」は、上流や支流から流れ出る「葦の枯草」が河口堰や海岸に流れ着き、多大な迷惑をかけていることに着目し、葦の利活用を図れないかと、「嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会」と共に検討し、活動しています。

葦は川面に根を張り、家庭の雑排水等の汚れを吸収する浄化作用がある貴重な植物ですが、反面、刈り取らず放置しておくと冬に枯れ、翌年の夏場の大雨時に下流に流れ出ます。

栄養分を多く吸収している

夏場に葦を刈り取り、肥料として利用することによって、洪水時に下流へ流れ出る葦の枯れ草を減らすことができそうです。当日は、距離にして約1km【刈り取り面積5ヘクタール（5万㎡）】を50人のボランティアで葦の刈り取りを実施されました。

主催者の声

刈り取った葦は堆肥小屋へ運び、そこで細かく裁断し、「米ぬか」を混ぜて水をかけ約半年かけて堆肥を完成させます。この堆肥を近くの農家で水稻に施して「葦米」のブランド化を目指している。また、遠賀川流域の河川愛護団体や農家等に配布し、広く河川環境保全の啓蒙を図る予定。来年は葦の堆肥を施した「遠賀川の葦米」として美味しいお米が生まれる予定。その時は「新米の試食会」を行い多くの人に葦の利活用を伝えたい。

第7回 遠賀川カヌー駅伝大会

主催：NP0法人遠賀川流域住民の会



開会式の様子



いよいよスタート！！

カヌー駅伝大会 成績表	
優勝	大分小カヌー同好会
準優勝	大分小カヌークラブ A
3位	大分小カヌークラブ B
4位	チーム鯉つり名人
5位	穂波海洋クラブ
6位	チーム光代新橋付近
7位	こころん
8位	エンジョイIIZUKAカヌー
9位	エアールフと愉快的な仲間たち



力強い漕ぎっぷりです！

平成21年8月16日（日）飯塚市平恒の穂波艇庫で第7回「遠賀川カヌー駅伝大会」が開催され、小学1年生から72歳までの選手が参加、総勢9チームが岸からたくさんの応援を受けながらタイムを競いました。

この大会は遠賀川流域の環境や水質などの向上を図るため参加者に水面から河川に触れ、肌で遠賀川を感じてもらおうとの思いで実施されており今回で7回目となります。会場は当初、遠賀川の英雄橋付近（飯塚市）でしたが、前日の雨で急遽、穂波艇庫（飯塚市平恒）で開催されました。

参加者は地元飯塚市や嘉麻市など9チーム（45人）。小学生と一般でチームを作り、艇とパドルをタスキに速さを競いました。小学6年生の2分6秒が最も速く、見事なパドルさばきで大人を振り切りました。

日頃の練習の成果が発揮され、子ども達の笑顔が輝き、応援も一段と力強くなっていました。

優勝した大分小カヌー同好会
と大分小カヌークラブの皆さん



川づくりを考えた彦山川。Eボートで初乗り



ひこさんがわ夢の会の皆様
による清掃・草刈の様子。

平成21年8月24日（月）に福智町立赤池中学校の1年生が、一部出来上がったカヌー乗り場からEボートの初乗りをしました。

平成19年度より「赤池地区河川利用推進事業」を開始し、一部が完成。当地区（彦山川：福知町市場小学校前付近）の河川整備について考える「子どもの水辺協議会」に赤池中学校の生徒も参加し、生徒の意見やアイデアが川づくりに活かされています。

平成17年に赤池中学校の1年生が、「総合的な学習の時間」を利用し「私たちの水源を守ろう」のテーマのもと、彦山川についての調査・活動に取り組みました。

彦山川を調査するため、地域で活動している「ひこさんがわ夢の会」の皆さんに指導を受けながら、共に河川敷のゴミ拾いや水質調査・鮭の稚魚の放流活動をしてきました。その後、毎年1年生が環境問題をテーマに取り組みを進めています。

当日、カヌー乗り場から赤池中学校の1年生は10人で漕ぐEボートに乗って、川の上から見る周りの景色を楽しみました。しかし、10人で漕ぐEボートは息が合わないと言っすぐ進みません。みんな真剣に漕いでいました。

また、生徒たちの学習や取り組みを温かく見守ってきた「ひこさんがわ夢の会」の皆さんも、河川敷の清掃や草刈りをしながら生徒たちに声援を送っていました。

人工呼吸やAEDの体験コーナー



消防士の皆さんに人工呼吸やAEDの使い方を教えていただきました。「心臓や呼吸が止まったら、反応を確認後、119番に通報。救急車が到着する間がとても大切な時間。勇気を持って、心肺蘇生法やAEDが近くにあれば使用しましょう。そのためには日頃からの練習が大切」と。早速、参加者も実践していました。



放水体験コーナー



消火器体験コーナー



救命ボート体験コーナー



自衛隊の皆さんが災害時の緊急炊き出し訓練として400人分のボタ山カレーをつくりました。みんなで美味しくいただきました。



炊き出し(ボタ山カレー)防災版

安全・安心体験コーナー

「第1回 いいづか防災フェア」は、たくさんの参加者でにぎわい、それぞれの体験を通して災害への備えの大切さが伝わったのではないのでしょうか。

市民1人ひとりが防災について準備すること（自助の力）、地域や周囲のみんなで共に助け合うこと（共助の力）、公的機関で守る（公助の力）、3つの力が連携することで、防災に強い街づくりができるのではないかと感じます。

「災害は忘れたころにやってくる」いつ起こるか分からないのが災害。みんなですべてに準備しましょう。



第1回 いいづか防災フェア

主催 飯塚市

飯塚市はこれまで、防災訓練や水防訓練を毎年実施してきましたが、「市民と共に防災意識を高めて、防災に強いまちづくりを目指す」事を目的に、今回は広く市民を対象に防災や水防の大切さを楽しみながら学んでもらおうと開催されました。会場は飯塚市防災ステーションや遠賀川の河川敷で、飯塚消防署・飯塚市消防団自衛隊・飯塚警察署・飯塚市社会福祉協議会NP法人遠賀川流域住民の会の協力で14のコーナーを設けて開催しました。

平成21年9月6日（日）飯塚市芳雄町の防災ステーションや遠賀川の河川敷で人工の豪雨や地震など体験し、防災や水防の大切さを学ぶ「第1回 いいづか防災フェア」が飯塚市主催で開催され、たくさんの親子連れが参加しました。



高さ30mまで上がります。遠賀川が一望でき、子どもも大人も大人気でした。

はしご消防車体験コーナー



地震体験コーナー

防災センターの1階にある地震体験室では震度3から7まで体験できます。震度が6から7になると、もう立ってはいられません。

平成15年5月22日にオープンした「遠賀川飯塚地区防災ステーション」は飯塚市芳雄地区にあります。主な施設として、洪水時には飯塚市の現地対策本部や水防団待機場所となる防災センターや、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておく水防資材備蓄場をはじめ、上空からの被害状況を把握するための防災ヘリコプターの離発着場、災害車両対策基地などがあります。

防災センターの開館日は火曜日～日曜日（月曜休館日）開館時間は9時～17時まで
連絡先0948-21-6102

「恐怖を感じる猛烈な雨」1時間の降雨量が100ミリの雨を体験



降雨体験装置内、80mmの雨は恐怖を感じます。

降雨体験コーナー

1時間に30ミリの雨をバケツをひっくり返したような「激しい雨」、50ミリの雨を滝のように降る「非常に激しい雨」、80ミリの雨では、恐怖を感じる「猛烈な雨」といわれます。

降雨体験コーナーでは、1時間に降る様々な雨量を体験できます。80ミリの雨は目の前が真っ白に感じるほど。また、話し声も聞こえませんが、傘がとても重たく、実際にこのような雨に遭遇すると、とても怖く、歩けません。

平成15年7月19日の大水害では1時間の降雨量が80ミリという記録があります。今夏7月24日の降った雨も飯塚で1時間に98ミリと局地的な豪雨でした。



近年このような雨の降り方が多くなっています。平野部で雨が降らなくても、山間部で局地的な豪雨となれば、平野部も洪水被害の恐れがあります。平野部で局地的な豪雨となれば道路冠水等が発生する恐れがあります。

国土交通省では川の防災情報を発信しており、携帯電話でもリアルタイムで雨量や河川の水位を知ることができます。ぜひ活用ください。



携帯サイト
川の防災情報QRコード
<http://l.river.go.jp>

川の防災情報
(携帯版)

雨量と天気予報用語：人や自然に与える影響

1時間の降雨量が50ミリを超えた場合、不必要な外出や車の運転は控えましょう。早めの避難を！

1時間雨量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 木造住宅を想定	屋外 の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からはね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声がよく聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20～30	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしてもぬれる。	寝ている人の半数ぐらいが雨に気がつく。		ワイパーを速くしても見づらい。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけくずれが始まる。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。			道路が川のようになる。 	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキがきかなくなる。(ハイドロブレーキ現象)	やまぐずれ、がけくずれが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。都市で下水管から雨水があふれる。
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る。ゴーゴーと降り続く。	傘はまったく役に立たない。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 	車の運転は危険。 	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。					雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

出典：気象庁HPよりhttp://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/yougo_hp/amehyo.html

第30回

遠賀川川下り大会

主催：遠賀川 川下り大会実行委員会



各艇一斉スタート！！

川に親しみ、環境に関心を持つてもらうと毎年7月の最終の日曜日に開催している「遠賀川川下り大会」は今年は30回目を迎え、8月2日（日）開催されました。「川下り大会が終わらないと、遠賀川に夏は来ない」と参加者が楽しみにしている「遠賀川川下り大会」は遠賀川の夏の風物詩となっています。

この大会は飯塚市から北九州市（木屋瀬）までの23キロメートルを、思い思いの工夫を凝らした手作りの舟やいかだで挑戦します。日本の手づくりいかだレースでは日本最長距離を誇っています。毎回、九州一円から70隻前後（500人か

ら700人）が参加しています。

しかし、第30回目を迎えた今年は7月末の大雨により当日は中止となり、一週間後の8月2日（日）に開催されました。順延のため参加チームも減少しましたが、33チーム、307人が飯塚市から直方市菜の花大橋まで熱い戦いが繰り広げられました。

川下りの途中には4か所の堰があり、それを越えるために舟やいかだを川岸に持ち上げ、また川に下ろす必要があります。船を運ぶのを手伝い合うチームもあり、堰毎に選手の交代を行うチームもあります。漕ぐ人、サポートする人、応援する人と、参加者全員で協力しながら、楽しいレース



いろんな形のイカダで川を下っていきます

が繰り広げられます。今回のレースでは、大雨の余波でいつもより流量が多く、流れに乗って優勝したチームは昨年より30分も早いタイムでした。いかだの部で優勝したチームは、「このレースのため筋肉トレーニングを毎日行っていた。リタイヤしたチームもありましたが、5時間近く漕いでゴールした最後のチームは、下りきった喜びと、長い長い川下りから解放された安堵感と、開放感で満たされたことでしょう。また来年が楽しみです。」

優勝おめでとうございます！！

いかだの部 成績表（飛び賞含む）		
順位	チーム名	タイム
優勝	ハイブリッドのお店福岡トヨタ	1:59
準優勝	スパルン2号	2:07
3位	池田石油黒崎西	2:09
4位	オーシャンズ15	2:15
5位	木屋瀬みまもり隊	2:24
6位	ZERO	2:28
7位	福津市役所 いかだ部	2:39
8位	新川町山吉会	2:40
9位	乙姫と浦島GO！カメスポ	2:46
10位	カミショウ、トップでカエル号	2:47
15位	ネットトヨタ北九州	2:57
20位	あぶ丸	4:10
舟の部 成績表（飛び賞含む）		
順位	チーム名	タイム
優勝	あうあう重工	1:53
準優勝	イルカ近畿大学	2:22
3位	スカイルーフ工業&アリス文具丸	2:29
5位	みろく園	2:55
7位	リバー天・淀号	4:38



いかだの部で優勝した福岡トヨタチーム



舟の部で優勝した「あうあう重工」チーム

筑豊炭田といわれ昭和の一時代を築き、エネルギー革命で石油が主なエネルギー源となるまでは、筑豊で掘った石炭を洞海湾まで運ぶ五平太舟が遠賀川を行き来していました。昭和以前も筑豊でとれた米や物資の運搬路として川と暮らしてきた歴史があります。遠賀川の川下りは昔から遠賀川流域の暮らし・風景となっています。

7.19大水害「今やから話せる」市民集会

主催：NPO法人遠賀川流域住民の会・NPO法人防災ネット研究所



平成15年7・19飯塚大水害から6年が経ちました。当時甚大な被害を受けた飯塚市の東町商店街で平成21年7月19日「今こそあなたの体験を話してみませんか」と当時被害にあった人、救助支援をした人、水やおにぎりを配布した人たちが集い、当時の様子や現在の心境などを話しあう『「7・19大水害 今やから話せる」市民集会』が開催されました。

『「7・19大水害 今やから話せる」市民集会』が開催された数日後の、7月24日から25日にかけて北部九州に豪雨に襲われ、筑豊地域も被害を受けました。未曾有の災害に対し、どう対処したらよいか、1人ひとりの意識の向上が求められています。

当日は20人の体験話があり、会場に集まった人たちもうなずきながら当時を振りかえっていました。

体験談の抜粋

「激しい雨が降る度に怖い」

「この家にはだれも住んではないはず、と思ったが、ドアを叩くと微かな声が入ってくる。入ってみると、ちやぶ台の上で助けを求めるお年寄りがいた。それから全ての家に声掛けをして確認を取った。」

「現在のように街も商店街も復興できたのは皆さんのボランティアの皆さんに支えられたおかげ。心からお礼を言いたい」

人と人、地域とのつながりの大切さを実感します

大水害から6年が経過した現在、遠賀川・穂波川の河道掘削と芳雄橋や飯塚橋も架け替えが終了し、さらに愛着ある川へと生まれ変わりました。また、災害にあわれた地域では住民の手で防災マップが作られるなど、防災に関心が高まっています。

しかし、一方では「7・19大水害」は少しずつ私たちの意識から風化が始まっているのではないのでしょうか。自助（自分の身は自分で守る）・共助（地域や周囲で助け合う）公助（行政が行なう）が連携することで災害に強いまちが生まれます。

今回伺った貴重な話を、「7・19大水害記録誌」としてDVDにまとめ、当事者や関係者に配布。また、記録誌として、今後の水害活動に役立てていくため本にまとめられるそうです。

彦山川 夏の風景

添田町野田【歓遊舎ひこさん前】の「野田河川公園」は今夏、たくさんの川遊びをする人々が集まりました。

平成14年3月に遠賀川河川事務所が川へ

親しみやすい、川でできる体験をしやすいよう環境整備事業を実施。近年の整備効果もあり、より川へ近づきやすくなり、子ども連れの家族で大賑わいでした。

【施設情報】

平成11年11月21日ふれあい物産センター『歓遊舎ひこさん』はオープンしました。

平成12年7月23日には施設周辺に「子どもわくわくパーク」「菖蒲園」「りんご・もも園」などが完成。また、平成17年10月22日に、道の駅「歓遊舎ひこさん」としてスタートしました。



遠賀川流域だより 皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

発行 国土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949) 22-1830

FAX (0949) 22-2859

HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

協力 NPO法人遠賀川流域住民の会

電話 0948-22-3535

<http://www.ongagawa.jp/>

